2022/10/22

2022 第 37 回大会　東京都区部バスケットボール U12 大会
ローカルルール適用における審判の対応ついて

東京都区部ミニバスケットボール連盟
審判部

第 37 回大会よりローカルルールとして、スリーポイントを採用します。
そのため、審判に関連する、「審判シグナル」および審判の見方・注意点について審判する上での資料として記載します。
また、参考として「バスケットボール競技規則から変更点」、「スコアシートの変更点」について記載します。

本資料に記載のない条項・項目については、「バスケットボール競技規則（ミニバスケットボールにおける適用規則の相違点を含む）」に準じます。

１．スリーポイントの見方。注意点

スリーポイントフィールドゴールエリアから放たれたショットであるかの判断が増えます。
特にトレイル審判は、足元を見ることができる位置取りが必要になります。

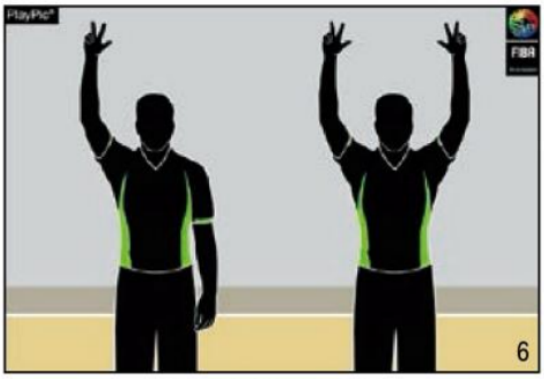
・シグナルは、基本トレイル審判が出します。（シグナルは「２．シグナル」を参照）
　放ったショットがスリーポイントフィールドゴールエリアである場合は、片腕でシグナルを出します。
　ショットが成功した場合は、両腕でシグナルを出します。
　ショットが不成功であることが分かった場合は、片腕を下げシグナルをやめます。
・リード審判の責任範囲でショットした場合は、リード審判が判断し片腕でシグナルを出します。
　トレイル審判がリード審判のシグナルを見て、片腕でシグナルを出します。
　リード審判は、トレイル審判がシグナルを出したことを確認したら片腕を下げます。
　（リード審判は、ショット中のファールを吹いた場合を除きショット成功のシグナルを出しません）
・スリーポイントフィールドゴールエリアでのショット動作中のファールの罰則は以下の通りです。
　成功した場合は、３点および１本のフリースローが認められる
　不成功の場合は、３本フリースローが認められる

注意点は以下の通りです。
・スリーポイントラインを踏んでショットし成功した場合は、２点です。
　（スリーポイントフィールドゴールエリアからのショットとはみなされません）
・スリーポイントフィールドゴールエリアからショットを放った後、ツーポイントフィールドゴールエリアのプレーヤーが触れ、その後ショットが成功した場合は３点です。
　逆に、ツーポイントフィールドゴールエリアからショットを放った後、スリーポイントフィールドゴールエリアのプレーヤーが触れ、その後ショットが成功した場合は２点です。
・プレーヤーが空中にいる場合は最後に触れていたフロアにいるものとみなされます。スリーポイントフィールドゴールエリアから飛んで空中にいる間にショットし成功した場合は、３点です。
・

２．審判シグナル

スリーポイント追加により関連するシグナルは以下の通り。

（画像は、「バスケットボール競技規則」から引用）

得点	ファウルの罰則の処置　テーブルへのレポート
3点  3本指で腕を伸ばす 片腕：ショットを放ったとき 両腕：成功したとき	3本のフリースロー 3本指をあげる
フリースローの処置－アクティブオフィシャル（リード） 3本のフリースロー 3本指を水平に	フリースローの処置－パッシブオフィシャル（トレイルやセンター） 3本のフリースロー 両手の3本の指を広げる

３．スコアシートの変更点

フィールドゴールで３点が認められたときは、得点したプレーヤーの番号を〇で囲むが追加となります。

A		B	
	1	1	
6	~~2~~	2	
	3	~~3~~	18
	4	●	5
13	~~5~~	5	
	6	~~6~~	12
	7	7	

・フィールドゴールが成功したときは得点に斜線をひく
　フリースローの場合は塗りつぶした丸印（●）を記入
・となりに得点したプレーヤー番号を記入する。
・**フィールドゴールで３点が認められる場合は、**
　得点したプレーヤー番号に〇で囲む。

（参考１）ルールの変更点
「2022 バスケットボール競技規則 ミニバスケットボールにおける適用規則の相違点」からの変更部分について赤字で記載する。

第２条 プレーイングコート（Playing court）
――

2-4-4 スリーポイントフィールドゴールエリア **（★一般と同じ、ミニコートの場合を記載）**

チームのスリーポイントフィールドゴールエリア（図１・図３）は、以下のラインで区切られた相手チームのバスケットに近いエリアを除く、コートの全エリアをいう：

・外側の縁までの距離がサイドラインの内側の縁から 0.90m となるようにエンドラインと直角に描いた２本の平行な直線。

・相手チームのバスケットの中心点から真下にフロアまで下りた地点を中心とする円周の外側までが半径 6.75m の半円。エンドラインの内側の縁から半円の中心までの距離は一般コートの場合 1.575m、ミニコートの場合 1.225m とする。半円は２本の平行な直線と交わる。

・ただし、幅の短いコートの場合は、２本の平行な直線ではなくサイドラインと交わる。（２本の平行な直線は描かない）

スリーポイントラインは、スリーポイントフィールドゴールエリアには含まれない。

第 16 条 得点：ゴールによる点数（Goal : When made and its value）
――

16-2 ルール

16-2-1 ゴールによる得点は、そのバスケットを攻撃しているチームに次のように与えられる。

・フリースローによるゴールは１点。

・ツーポイントフィールドゴールエリアから放たれたゴールは２点。

・スリーポイントフィールドゴールエリアから放たれたゴールは３点。 （★一般と同じ）

・最後のフリースローの場合、ボールがリングに触れた後でバスケットに入る前に、オフェンスのプレーヤーあるいはディフェンスのプレーヤーが正当にそのボールに触れ、その後そのボールがバスケットに入ったときは２点が認められる。

16-2-2 誤ってでも偶然にでも自チームのバスケットにボールを入れてしまったフィールドゴールは、相手チームに２点が与えられる。**スコアシートへの記入は、ランニングスコアの得点（相手チーム）の 数字を斜線で消し、となりの欄に▲を記入する。キャプテンの規定については適用しない。**

（★変更なし）

第 34 条 パーソナルファウル （Personal foul）
――

34-2 罰則

34-2-2 ショットの動作（アクトオブシューティング）中のプレーヤーがファウルをされたときは、ファウルをされたプレーヤーに以下のとおりフリースローが与えられる：

・そのショットが成功したときは得点が認められ、さらに１本のフリースローが与えられる。

・そのショットがツーポイントフィールドゴールエリアからのショットで不成功だったときは、２本のフリースローが与えられる。

・そのショットがスリーポイントフィールドゴールエリアからのショットで不成功だったときは、３本のフリースローが与えられる。 （★一般と同じ）

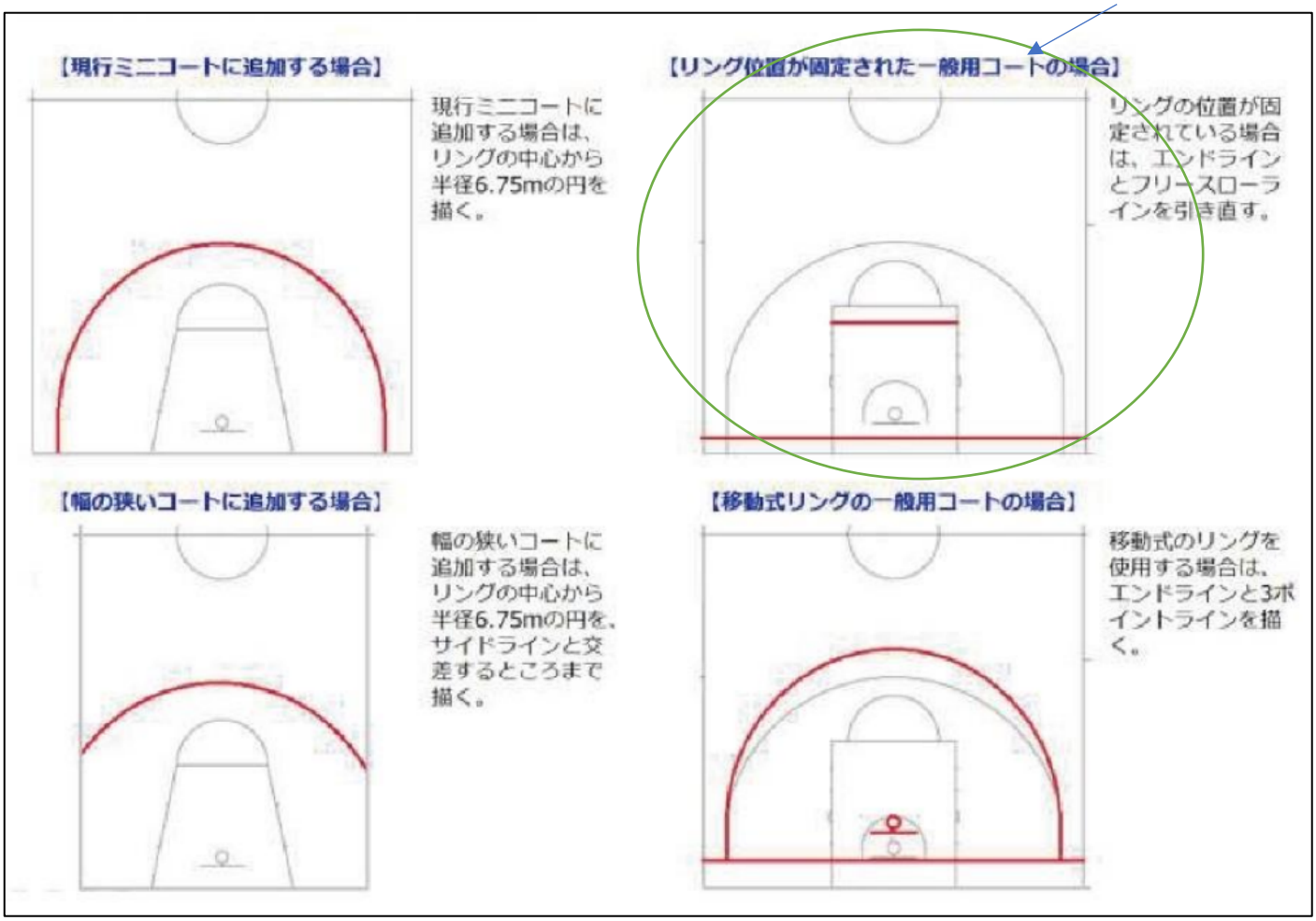
・ファウルが起きたその直後あるいはほとんど同時に、各クォーターや各オーバータイムの競技時間の終了のブザーまたはショットクロックのブザーが鳴ったときに、ボールがまだショットの動作（アク トオブシューティング）中のプレーヤーの手の中にありその後ショットが成功しても、得点は認められず２本**または３本**のフリースローが与えられる。 **（★一般と同じ）**

第 43 条 フリースロー（Free throws）
――

43-2 ルール

43-2-5 フリースローのときにリバウンドの位置を占めないプレーヤーは、**フリースローが終わるまでフリースローレーンより後方（フリースローラインの延長上から 1.80m以上後方）にいなければならな**

	い。スリーポイントラインの規定は適用しない。　　（★変更なし）
43-2-6	あとにフリースローの「セット」が続く場合、あるいはフリースローの後スローインで再開することが決められている場合は、フリースローシューター以外のプレーヤーは、**フリースローレーンより後方　（フリースローラインの延長上から 1.80m以上後方）にいなければならない。スリーポイントラインの規定は適用しない。**　　（★変更なし）

（参考２）３ポイントラインの適用　（参考文献：競技規則内ミニバスケットボール競技規則外運用細則）

・現行ミニコートに追加する場合は、リングの中心から半径 6.75m の円を描く。
・幅の狭いコートに追加する場合は、リングの中心から半径 6.75m の円を、サイドラインと交差するところまで描く。
・一般コートの場合は、下記右図が基本である**が、会場責任者の判断とする。　このパターンがベストでは前田**